[illegible]

(۱۲)

麻の葉

席

そもそも麻の葉を大きにひのはぐあるいはくあつてこころろあ拾葉といひまるおどけものれさびんあをしにおろかあり
てこころをいひりてめてまぶけ
こころだに用をさくいのかるにもあ面拾く
うよの拾まり月まら日まら月拾りと
さ成ひおとぶりずのひざをいるあ

はるこの花さくあるあるあるあ
あひたはくかるりのくしかもさそうげん
きざるのあすくりり三佛生のあんを
いぶりの我がいわさこうのたまといん
麻がすむこのりあるあるあるうぢ太和絵師
右山師重物うるうれあるうごとあ
たがゆひてあるさうの海さ覺きるれあ

麻れ海さ覺題目録

初 第一目録

なんぞうやくあかの
三人ろんぎさ
せりあれけのこ
いあるるのぞうまるすま

一 第二目録

覺度れぎ西ふまう
海さ面 海
后二ぞん目
義丹れろあん

一 二 三 四

六 ゆんたくさい
七 かんぢんしよのみぢの

第又回録

一 ぬまとれば　じまり
二 ゆ屋のあるまま
三 ぐりあぞたるの
四 ぐぐ寺詰　信状
五 作蘭ぐかるの
六 神れ屋乃を
七 あふさ毎のまうけん
八 ぐいたまなれ回復
九 心ぐりい我和

ぐんぐうやか

淺草ぐ寺町よりぐごのぐんぐさいとぐうぐぐ法るる
るめいぐんの郷工人あり江戸中うあまれくあり
らゆうのまあるりをうさうよりて光のるる
只人ありて江戸さるとしを名をぐんぐうやかと
法さけりさぐぐるよやぐのありしに法行をうりて
ぐうよ法ぐうれぐに作のるるのぐんぐぐんぐ法い
世間にるりされぐぐ人の作法をぬるる
きりりるるるるりて・かぐひるるるぐぐ法け
ておぐしにいのまるるぐ十るかるぬる
ぐりぐ　ぐるかるりて　ぐるの　るるる服ぐぐ光るる

吉原之地
文政
庚辰一月
吉國橋
松永
上野
乾見
古極楽
正月日
寺門静軒

うちのぞき　くおもうらいをもむかをまわりのひとこと
くせんさうするにさうけらんすいとこどうくのうそて
よあいをりおいそをあだうらめかをあうてうらさ
いそうそうてがきこうをてそをそをけいのかを
うりあをうらうこかよりあうあいとと一こをおびて
せんさくすをいうらうよあ毋いんをよーていうあしよ
いんさこのうあ三うあをよおをうあをあいくこうさうぐこそ
さいかいんさうこいをうそて高三作こあうこかけのかいうら
なすをぐうをといあよあんをよをくおてをこのたいをは
ううを、ものをあをうぐうをうのうこをうをこのあをうかう
ぐうたうりかのていていうう〳〵とうをうゆ、

くんか　は夢をよびてうをあれ。あいけうが二うあ
あうう〳〵て四うのあ毋のであいくいをきてみあんを
うびてうをよ我くはこ年をわうこうけうまけり
ますをいぶんあをぐをけうああをけうあをとけをよけを
あうをきいあうぐだんハをあハをあをけうぐうをよ
なりあをすうをそをそんぐーまをあをうをあをきいて
かのをうらぐあくぐーハをいくのうぐをーをうあてぐん
をこけ。おをぐああをよこていををぐ月のあいをの
ぐをとかのあうたあくをものをいひけてをぐうーハ
ぐうりあうーて。をうををけを。ふ後ーあうをひてうあう
うこを。うをぐーいうをあすをこハぐをまうみをあく

いかなるのぢ　こうがいよりこくげのしんべえ[illegible]
あつさはらんにうとあるべんがにむくつとこ
きてせびあり　おとこ　おんなとこちらひのこさと
いかをとらづていんでこの二さいとおてさらかをのか
里はあて　とりそづかうろこ

三人ろんぎ

浅草伝町　松浦源内とゝ者ありむこ八ゐんよう
あるろうにんかりしがいまをひさうにかをきうでいかで
ちうをおりあくはひよりあ人ゝとりあり
よ二人ゝ来川なを市金つとそろうにんありいまをんを
[illegible]

あくしくをきけりはなを市れはとあかるごをきう
紙ごいまそはいにをもをとるあるこして西方を
のこいの　れをり源内をあはをれをうをすそ
あいてのあんをりはよりるひとをはさををるこ
ちうをかうをすをそ　よをあをのかをうを
いるのをのくのをはけりあるをを源内方よく
三人をよおあいをすをくよを山のをのをちうり
なをんいひををけうはをくなんゝいけんとを
すあるをいかるををれをんげんをづれあの
をにむまをかををらのををちうをりなをとを
をををいをりををあ[illegible]れをうをよををを

天下泰平

寺の武ら

[illegible]
あがく[illegible]人をたちとく[illegible]のいろのあるから
とりふ・あるをあてたる人のぜんあくをたうかうて
人のうんめをしる事三ねんぐのいろ利
[illegible]かうよこて[illegible]ぐいてごたうよあるべし
といふをきてうちの時除門ようきけるハたうてうり
いうんのハたうぐたうてうるのあれば
[illegible]をあけたまへ[illegible]そ[illegible]たうぐハ・かう[illegible]
かうそ[illegible]たてあ王ハたうえさ・王の
[illegible]さ八牧ハかけたうう八たうん・歩九牧ハ九ぢん乃
たうたうぐ船車角行ハ・ゆんぐ[illegible]・ふんぐん

せいしゅ[illegible]ぐ・ある・[illegible]のいろあり
ぐんのかりてよ八十一の月ハ天の三十三天・地の三十
六ぢん十二ぢんたん[illegible]八十一ありいろのり[illegible]天王ハ
[illegible]ハ人[illegible]のちたよう[illegible]たうぐのよう[illegible]
はあひハかうたんよあ形ぐ一ぢんあくぐ[illegible]
一ぐんのまけありたたよあるぐ・てたこうあよ
入て金よあるハたかうたうの人又ハすあの[illegible]
のの[illegible]たたかたりたうあるのたいぐ[illegible]の
人とはりたたうはたたたこのよたたあのよたう
ひとし金ハたたにあるのすうんかぐひすあり[illegible]
かぐ　すぐハうくたぐ[illegible]

[illegible]
[illegible]天の字ハ馬より
[illegible]

議爲
師利

大福帳

ふとんの

[illegible]人のうへに、[illegible]
香車ハ軍使なれど、てきぢんまで すぐにげの歩
ありがるされどさきにそなたをたつ、かうこ
さるとあ、てきぢんまで入れば 金よりてんたなるうる
あり 飛車も一方の大将なれば 王とおな
角へきるとんのいりあきこ 能なるとあり、ひとりとして
仏法仁義の為なれば ずるするあり、きうぎ法を
きうるとありうくもよ、よりとけきのひ[illegible]といはれ
をうるよあるんをを、さらてげみく源氏の作
をつとるありせめていはをよるまへうまづかるこ
をつりはず、いをあさへ[illegible]るとぞからしをすくと

いふのあるへをしよ、さこ(あいて)ぞ[illegible]をかろうさを
かざをとりあけられてせんさ形 たで、巻をさて
きるもいや、人のあんまで、かぶをのりをりひとぞまり
たまへとてかるさのあんを一うう、きりまてたんかり
ひるれて

三ようさん　ようようれ　ぼまいれうへ　よあいうく
ちうんけんぞく　うさこさて　七よまうさを　おきあげ
八をひうくん　いまのまぞ　九ようをを　さうに[illegible]
ちくをちの　あやまりて　るぎやとうを　ふあり
ぞうりをと　あげたまへ　せあてをうざ　げいのうと
たでエ、よ　ちくあり　へれうた　[illegible]

三てうり仕　あしくして　ひざの香車を　よくなりて　まよふ
歩じの持あいは　おもくあり　人の角行
どうでも飛車も　しらでありもり
何事も人のさだんじさいとふう
ることなどへしるまもこそあまり
さてまた手をかゝることをしらでめれしとをり
せり駒おれけいこ
色々しり霜月より行し五手ていちでめてかゝりみせ
よ出るお駒まへくらげまでのこれより詰め
手たらずがよくありもでのへおかれまよりいよく飛車むら
さすにての勝負もひらのかれしさうもかてれうちれ
ききて八ぜんせり駒をいふめくおれてゐ勝てれうちに
ゆくしけ又は家をかけてきそくお孫いりけりまれ勝
ぞくゆえてきそくの大小をさし方駒りをして
みんとやおりひきんのきそくれ角らそれさきて
ようせうより孫ろかゝくいへともそりれかきれいまん
いをさけにひところてをはくせしにて飛車ふらん
らまやさてまりのん志し孫へさろをきうんきゝ
志ふんをきるよてとおもくとあゆへの極を駒を
ありし三手孫ん又一反てかさいれらのおうせいあふるが
そのてをくこう会のせち恐うごんけのあや乃
かくいはよあれ手は角をありくいでともふれへか益

龍燈
黄

ぬとうきろぞくとうてたたをさをとるよりかり
あげられいきあくどどろうろさうみてだいあを
さしてあげゆくはいかいるよあるくをとさとし
てさうとれさけばさみとてらあり人たづい
あてあろうとえいやさうさうげんのせりゆるうがあを
のかりうせに出るよりしてくしてみゆしさとく
いまきてあうくあんどうしたた

田舍者のごうまを

をとり町三丁目にさしこあるの男さうあ
りうれとのよむひちくとのたりひゆしさとくいふ
あるかるとうとうこてらいたたりうえくありとえ
俗ちをとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
すをいふ人しさそれでうをうをあるくいくふうを
うをうをふくうをうをうを水戸うまのうをうをので
ござるをしあてくださるをさて俗を二月ぢのみちを
かりゆすさりとりとくいふひをとをとをのどくよ
おりひてせあてかさうをうをうをあげくたまをあかく
をうをを者を家れを。みあを。さをみ。ゆうあををををら
くかんぐてさををもむりいのを上下やどにゆつぐを
をあげるをでありあふまりぐをありをさをあをを
れをとをいりをををををををををををををををを

ちりまのうこうとうあるそれでもごぞんじあまと
さうくさすものぞくといふ。いまありひけこ伝授
屋の八兵衛といふ人ぞそを色くとりてたづ遣

麻の苧績方二

第五十九番

こたり所より高麗ちうしうあやありおとのあち
といふ十四ぞうのうまのうまのはけるものれと
のうちのにはもちにあるとあくさちうとはけうと
いかもちこそゆとたちうさうちとはいかおでこ
ざかさくうとはけてちれまをいとうくも
はうじまはうとはけうこにまこのちはい陰
よ八兵衛とりかこありしがのらにおまとうそ
のうこうまみよりもちうのいへはけ

ちゃのみ
ちゃのみ
ちゃのみ
ちゃのみ
ちゃのみ
ちゃのみ

碧流
碧流
碧流
碧流

乃ちのもれみうちよりはちまんまいりまいらせたまへ
ようるまてとれもあまたとしたはもぬとてたんの
ちくまうとくはけらはけりきてこそのこれかそつぎのかと
はけかとていあぬしうりさてうはちまんをはしりはる
まよきろさてうつうはちまんをはきのかとはけきはし
たとうへうのこのこうこそのてさそくゆくひかつう那
はきのかちもきろくあひかこそのうよのせはぎのか
とうはきこそてさんくよううこうこうさいて
さそくさんかをかをはうるのをもしをはおまえ
たかはうよいうをはこはうこそのようこそかかをまま

元亡戌のとし　極月廿八日やすのかぶんをかこ
せうじ屋ごろさをうこうるをこうまんがゆうのをを
くたつのうかはかをのせうじやよかくまをえ人
ありとうしうりけきいこみせうじ屋とてこんかの
人をとちひきろ三年さはよはえをせうをはけよ
えをのみありえよこうまんまをはをはかの
三人のうきをこうるをうのをのあをはのあとを
とりみさをすたをこうよこをのをををりをうはよ
こうこをはをよりけうをかうるありかうよこうもの
よりのうをさうりもせんか　をんかはをはをはのとを

まいだんをぐ屋し紙あきなのをさんといふみ
ちのとなりとこうしさきうをとうりてとんとうとうまい
けうハせうじやうまさうとうるというものとつて・はしは
さ・ひくかをざうをさてとんまんくさきうちうちを
してあうけだん町・ちうしごみ・かうし町・ちうぞう
あをやあ・ちうぞ・こびさ町・はさうづ・てうちうばをか
ぎりに・うりてうけもありみあり時はををり町
あどうち・こあこ町・ちいうん橋・ちうし
をこうあて・ちう川・てら町・ちんじやう・あ西橋を渡う
あさてさ・ちうく・かんてあ角んを・うりありくれとよまい
ちうかんをあいかりるあ西月もちうていうくうりくも
みあいにあてちんじやうあいどのあんまをりあ時ちを
ちんをさて・つちちりをひてしこをなをりあり
あるやちるとうあて天よ橋ちを・まちうよあかを
ちとかをひかのさちうはちるんのあ西にちうくと
いてあつけをさ二ちんじにうりをうちあ西橋
のあうりハ一めんよ・あつ橋ちうてをけてををと
ちんかうしされもあてをものあれハやうくけ
ちうちあ町まをうけをうちうよかをちのちをこだハ
れ屋けをちうちうんをちをそゆんとすれハちのひ
かへしてはうちまびのまちたあるよ・ひうーちを

まつの丸ち

ゆきてそこらいへこうあきとらいてそのあるかよ
うるめてたまうべきどそこまでさるひとたをれ
なんしのゆふかうまきりはさてをきこまい
新あるりうとにたるうに上げのびうしう
かりかりから我くがさひくもたくさんあうべき
かをきいざやまづやけいろ〳〵ゆうんとて我いどころ
みうりそうく屋けきいこうのけて新あうあ人
みてその屋にこやをそうてうてそうされもさんの
こうきあいこんびさいくゆ〻ざのこさいあ先こうま
ゆ我くとはちづいひとこうあうんかうよかう
ゆうあのきたはよかあはけりはむやてきよた
まあうさるくハけづどりこうあうこうちすてハとう色
酒いとてたあ屋へゆきそてはよりをかうあうあ屋
ま。いそあのてうすを。きこうめ。まことこうあ
すあきふうちとそて。おうきでと大屋あいたかの為
きにこうひてこそちおかられたりたひ〻こうハ
どこくそ。こうのうちうめそこあうく。ひうりハこあ
てうりうり所やけ〻ハげあを。こあく所。こてあきこ
より所ゑげあゑ。うきこのさこい所あうくの人
のりわ所こどあきれくざいりく所にこうをうく
わりこあく。をこいあをれとこうこう所ゆうゆ

のかまとてりうちうる町まてたつぬ来てくに八百乃
すみかをたづねし。てさいちかんのおは塗
来るハさらしよそ来ともいへどに為くこそふるかけ
として八アけりしの火れゆきり。ぞそのうへ花松風ぞうり
あり思ひ来ルよけりもかくろうてハ為せうしさうく
名をよんでこそと初めし言えよさきうらりせうじ
風がみえのこ来れ何まをせぬとくひそうよふぞで
こそりきり。かうりけりところに思ひ来ルが〳〵息とこそ
ぞその松風めうよにたまとしそハとうきけるか
思ひ来見えのへ息とこまくらりも心も招うまうせし

見ハくしけれ三うち来りけるハけりか名のくのハいけます
して名を上るハそくさいうち大夫座元ハまゐるのうぢ上よのハ
けいぢしせぬとくらふあいさか太夫座め紙上ともに見はてく
いひてきんぞよのやけとくやうり。やりふ一枚ものうち
てこれを来ど。かさのせてさ所を思ひ来ルのさあとは
弁子新めぐさてあいさみ大夫座元いつまてもさてさま
たちそはそ座けこやさして其そこさをそ利

二番目

さあれ〳〵座けこやにかりしうれ名を見よろくさい。
名をよしとさて見ハいうに思ひ来ルのハあやとくある
座まんけりハどうぞとくさまきけうさねよのまて見り

まろけきこえたるうあつさこちのあ
ぢくるはさりをりそのえだをうえ
はきんとくりひろむそこいたとこ
うしのあゆるさりこあぢのほこあゆんでの
かをたうきて三日ばけて白いはいまたさ
うこそとこさくまづれわそくさをやめてやこく
ちのふちのうみまてりとこいあるをこにあすは
大屋根そのひいあるはるあこうとはけの写真
とりけりそのはよこうこはけの写真
るりけりいさをりこさこのこうこ写真がうまるこれよ
かりはいかをりはまるはるうこがりのあたり
さたるぞこ・ゆったりをそをそれてこうこ写真よ
あきこそくらいきるれそのあるみてこのはお
まりあそうこいたるをれ大屋根写真はうこけ
きるぞんでいたのこそそ・まりかうこのものをある
ぞ・こりかあうちのこのこりは新るあるはさ
するりはをりはけさをはこれこ写真はり
でこそそれよそあるおの写真はり
ことでまて三十一をいちぞ乃
りよけりんこそこのまぞこそるあるまぬ
こそのみちあこそ・このはいはくじみてこりくはぞ

しこりをるしのまよし風をくろいぬ一疋さいはいさき
さそひいぬまきるひさうかりたまひこく候とふ
はなり猫といひまかりけるあはせてそのちやまる
いちめりなりぬすみ人のまどれかなるまよのいぬまへ
十なるいせりうつ菓はなまよのぞむさしまでもあるさるよ
まのぞむ人ある程きれいはいまよりもせんいまのとのかれ
らうせんとしろぬのてんてうりかしかのこゝろらり
腐させうけて寺ふ一所まてをそゆきるあとかすかさい
ふくじゆてやきけるにかそうのとりうつのいせ
まきとむひいてたの火の中へとんて入れはふしぎの
ざかいいぬかずはくろくとら にみ火の中ま
いまのお信にこゝろのいぬをおつきに
りりしすめいてまてうちしよりあふふうよふく
きあさはきさのかがさりどにをあじきれいはせ屋
し由とふかり

夢中の浪人

宮ふ大和国源五屋と云ふ人ありかくのらうにん
ふそしとくとらかしむかし辛一本のうあさくべく
もくみへ只身のかなしそのあはれらしさあり
かもとるいぐきいまださうふとうろへ只いかさに
ぬさはなとめけるにありいつまめとうけさせぞ
此屋敷へまかりけるにれきそくの方をへの源五屋をと

[illegible]れあんけるぞ[illegible]
ぶ[illegible]てうんとおひてまさきけるふめとこれ
ゆ[illegible]をあてめうちをひろげて・けんぐあと云
のみおどろそあげみさされどもこ二三度
ちけるぐまさじをあけてるのみどもとさひ
ゆこと[illegible]ろげて・けんぐあまりそ乃
まれうあつてさそくあのろうんをそうさ
そあいそのでうをとゆをろそうをさうそ
だんれゆうの[illegible]あつてまりおられまするまづお
そりあされまをいらうひてはわうこうびよちん
すをりはしるまとはうんさそうまの

[illegible]ひあくせひあくさ[illegible]
たちけりげんこは[illegible]おれそこのいさづこがさげん
ゆうのよれよいきりさそうとこのふめゆくうんぐらう
そこのみこをかりひあくさをにうまさりぐを面
とめうちをゆうろげてどぐ[illegible]をれぐうんいまく
そうさふこさるゆつくいれさ

次のうん屋ぐくみそ

いろうとの三人つきそうけんぐののたゆよさり
しふまづ屋敷くどうんありきけうひひとやうら
どみをけそひうりれいけるあうんくふりとあそさ
おびくゆのうんくあ面とうふをもあてあうと

いふ一人が申けるハみまハさむしハいそかハしけにてん
ちくらうんといふものでござる中々そこらの
よりうるものにけるにも風流なふにらう人があるふ
らんふ太鼓があれにはかとありの下屋敷などいふさ

松本尾上様会

とかくするはかけろふまてあきしまする事にて霜月
朔日よりかんこ寒中志てのへ出まいりまいらすよりすくさ
あくいさけるこそくれさまとちりこそりてすけるハ今日
るおのへかへれらしある面紙くいへれいかやうや
むかしはゆう中たましいとれぬるのあるいまの方へ花姓を
あからなハくしらとかくおしらは方へおくりたゝたへを
猶またすめかさけしけれとこのしまる

萩原もゑらみそこにちらへ
かの人れらのとそれまぬ所なれそ
あるかきともなどさてとりきり
まけりひや油へかへかれらなれ程よ
あれさまそはつけてやらふそ
いさやうありきり

はなさの町のほとりよなりきりし新太郎といふもの
ありけるかもとよりあひひろけんしけるかさいかん
新太郎ありかりくふのとことより ひろとおいちみ
きていふ座るんといへるその中よりひなかうりける

ちくさらく男あまい海あまとてうぐさりで
ありもうでなのうやくいかえ又もりれいきろもい金
わりれ時かとこぶてありうけるあむて男と云ぎ
ヨうとくいかちろうもあ光あり人まれなくいれ
ど云りうり勢ちいみ〳〵三月とふ食んあへで
こふうてうあぐぐいくうりもろけてろもうくもそもの
ういかもりやとてかうの糸かとう形墨よいさん
ちやさいてありもうというあくいうきさ

扇の末第二

太城屋ぐうらくかえ
ヨよし去の江中村吉郎新芝居ちりて
あふうみかとりうろうもとせんとおりひたいこやぐうの
海くとかさふそあてちりきれいいうのうきち
きん

新ちぐいとおてたかさの海くとうり
さそくうらまいあるうん
かくぐちりかきちけきてぐ三月ふのぐくにひ
てそあのをしうんの海くとちりきれいまさえ
うち海ヨすたいこやうのまくのいい
そあかへしうるヨそそこんこぬ

さこせん拵ゑ
いつこすまろう
とうけ武ゑう
いつこすまろう

おやまゑう
和泉大夫
たくま太三郎
いつこ人さゑ郎

はいかいしはやりしことあり

浅草観音梅の枝の事

堂のきしにはしのところにきこしはなさきむすひ
梅をりこころ来をたかふことなひて浅草むらひ
とあさくさのかんぜおんよりふでにうらめて寺
小梅花のさかりなるにけんぶ川のこさせん神をば
らいていはめさきをむめのうれしさ神妙き
ふかひやうん喜やむしとおもひでたちよりて
ろんきんてあふよこさ毎に浅草よりうつりかいに
ながいのあひなりこもいかにも浅あしのりれんやま

一竹の寺の文字をこそききてちかうめんとや

二世うけてかなしとあはれにもちららん
海りきうる人にちらきうせしとや

堺町馬のかけみせ

市村たいへまれ宗月より出る秋葉甚五郎と云役者
まへかさハ芸りしみて三所さきなりかなりこれにく
かるくらこさうなりとよこさをとここかれて役者
よろの事しと人をいふ玉弟もおかりふかれを所に
あまりくはやれのこかけにいはうかなこせよ出る
さいふて芸りしれまうさとのさまたのことけるハはじめて

あるふるまひとぞ義をかしてとくされしとくれのまひ
めをかけし人々二三十人いひあをてをのそうをはま
ををのをのをのようかしををしてうをに三人をのの
はをりをのをのをこの世をあるををとをりうみしして
ををいのまにはををけるをそかひをしをあををををを
よをををびををくおををらくをくををををををををを
をををが一番ありをををりのをすををけんをりをウをくをを
ををいけんをををにまをりをををををををををををあをの
ををををををををををををををををををををををををををを
のをるをあをりををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををををををを

かをにををいをををにをいををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををををををを
ををいんをををををををををををををををををををををを

二ををを

をを加をを海まを川を盛をををの温をををといををををの温ををを
ををををををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををををををを

市川團十郎
そこのるの

米かーきやくあう

こそうぐをのりかけ行てこうらんざいちこのがたと
ちりはくくろのちりうらざいちよりおくのさうりひさあく
さそうろ次多かはのすやんとあををえくさうろよはのく
そのわう俵ものをどをうーあひたらかひうぐうり
たとさいてこちうくのふをぐきはかうこのがりをぐはい
うちうさりまそてをさうぐくさんくふいひおこ
きれぐ次多かおりのかうざいちよにかりてをいを
あーかんとこうらんさうこうりとくぐーはう
なさちうんまいさそてそのわうはのわうこうさうよ
ろをに。あをくばをこいいぐあくがうちうさうろのと云

正月はおいまひ
ぼ町よかうちう屋の長ちつとてはく俵家ち
ちのいまひをせうるさうさうは八日まてちうぐい
いそうろーはかざりれどうぐをこーらんさうあ俵か
をうびてかざりうるをあちをいうよ俵かはをはいて
ぶちうさーかうあうはうこーかざりをいうさぐろくてい
はうをあまいくいあていちあ氣ようけてぐろめうとらー
てそぐあう俵をあはけつはう俵かをだんはまう
かげさとあうさうと云長ちさくぐをひさあいをを
はうぐうさんはのすいめうさぬとのーうさあいをはば
りうぐうにかあーを俵そうさうをいあうさとんを豆。八

[illegible]をうちうるとして[illegible]
たくありてとだりいへくいひけ[illegible]
[illegible]おちかりけきを[illegible]
あんかざりをめつさよ貝[illegible]
[illegible]

三年のげんを帳

[illegible]解申さてて海へよさろうへありさ[illegible]
いうあるふうむひ川申てとりてうり[illegible]月の[illegible]
さてうふ[illegible]といふ男げんを帳をけうよだんる
[illegible]
[illegible]げ帳をとりてうふ[illegible]
[illegible]

海さよ松の枝とトよ[illegible]をひさまるを
かさてありまつうへさくまんのひせさと云ふをり
海ゝ男ひとたく海[illegible]れば・けんをとりて・けつ
たちにのりていふとろをかさてうり帳よ・見ち
よあぬがとうへでつきのけんりさ海といふだんか
[illegible]あてゝでおざうふ[illegible]海ゝをいん
むそうのようそとるひ

秋田左衛門よ大まゝ[illegible]ありて
[illegible]月朔日の夜むそうをうんをりてとうおを
[illegible]人[illegible]氣よりけをとるなゝ
二日のひるはうまでへ[illegible]海ゝりを

武三番
長の君は
胡ひ花
一声う情
五文字
九

[illegible]
かうようち海[illegible]
めもすりもおり[illegible]海すうりち分[illegible]と二世とうもてる
中よりはしりしらいとかさくとくあへ回店り
いらすく和泉屋の[illegible]とうのてちとこうあるすか
すくんん海もきけるよ四宮ちくらうをはぶさる
かるる[illegible]三ゆきんこのおもひもきよりてのあ[illegible]
とさうくあげてその方のはひこのあたをもちるくん
あきてはあるかりりあ多ゆめの四よこあまで
ゆしかつて合くあるりうまうとあのておけると云
[illegible]

[illegible]
ぶこうとをおてはこハ月おあゆめひちよおさて
よ誘こびまくいまきとさはぐりこと海さ面く
とりはくろい梅月おあいまれきりたとこへで与こ
さいぜんの下れ白よよのあをはきて月おあとてぶ
されさ

大くふゑんぼうかぐたうきる
おくうりまとくるのてふけう
こかきされてきまふ大きたよ和ひはのあ
いまれりきこ海ことはそのとうこ与ゆきは
はきあうこられけりそのこりてを四肥ことと

小和とものぞむろうあんさけ表
まつさごのあれ、あーさう郎
こいつと云むそうどうん海あぞめ、きづすぎく二郎
あるいふあ、さいるみもちくさう西ろ海
同家ゆあとたんさくよかさてみさぞもを公
さ面くいるあるぞのさろくをあよ長けろそう
ものさりてちろくときてあく同家ろ
そてたんさくどろけくうちあてあて海面と
ひそあけきるていち面いるといへぞのそう
のけゆあ同家たるずるくよ海れよあさろ

たるとこゆあ行ろ同家ぞかろてこいあさ
やぎのかげ海りら
さ面ろうあんさろの所角んみすをれかげ海
とかへけるふかん三郎夢ぞのへ面ふ一家月ろ
出きりまくのさろくそ色くふ長ぞあり
されどもぬてこいあきぞるみあきもやうく三郎三
のせんこいよいてもろさくとるひろけくろ
いつまろよあさくに海ふ角くあ色ハけいな
さくのさんろるのあ
とくにかるひてちく人海いりいちあやくさう

ゆけるハそのぜうういとすてとおもてきつく
ちうもみあらいでゐあ
あるき稽ぐらくいさんぐ
あされたこらでされ海せ

吉原ひかあそび

吉原のよろふおりのくふ
ありてひかとどとろ
ふけくゆて二月の日ま
よ京ありてきうとう
ちうゆんまう所

ゆけいすまうさうちう
屋要おうこゆ。あ金
天合て人形をちれと
ゆすいそうもさに
里ける流まを町ま
ぜう。ゆうをあけて
おりひてらきで小場
見ちゆる海で
町れさうひゆる
おりひけゆんぐ
太鼓どうそいゆ

御人形

祝ひ

御人形

祝ひ

そてのうすめたいこうりきく人形ゞり
いとりさ

仏すのゆんちん

ちぐひぐ三丁目に大和屋ゞ右ゑんとゞてそこひとゝ
人あり浄土ちゝ宗みてとゝ
移びゆてゞ秋ゝ稲さ
いさされりさい所よ仏せゝ和泉式の伝ゝ
ゆく稲んゝ色ゞ仏すのゝ
あひしよかゝ所よ
色ゞ浄ちゝ

あらいひちぐうふかりとと源氏ゝ
とゝ　かうきゝのしゝのまんちう
又酒一ちくゝ色ちたんさくあり
ぐちゝと伝ゝちりと色を浦きう
角つよ新酒とちそんらん
みちゝあくたかくぐりいひちりちゝ屋ゞゝ
よゝ月式の伝ゝとゞひて仕ちゝとちそたく
きていくぐ二首のゝを一首ゆて仕ちゝ
西方とぐうみたのまんちうのゝ
ちゝのらいかうぜんちうきう邦

京酒の説ノ末

なかにはとしのあらたまりのあさ
うまとりのよ　あるときすさのを
あるときさんらくにて大せいこ
のらをらんはよめてひさとさけとこがすすわひ
たしあひくちをとものあれをしきるよおり
ぎうとうびあり　さうきさけてさそひさうきさ乃
だいぐぜんをたにおびたしくさけのあてこがあるを
みおとるるかくこいあるよひさと　すてまをう
すきと　ひとうよりて　揚よはあておきはすう　そんが
あにあるとうとあるをを　うるはぐござりますう
をはりうはまりますうとくはのがやと

ひとうさそくおりよりらんあうきはいせんせう
風爰よはぐこうまでござりますかんうんさよく
おきをりはうく

さよはひうてひのをう　れ

さはんけうあうものをろおさそ也平家乃
一門おはきはよはうはいそきうか　人さうれあ兵
とうあのの物うようろうひ　おあきてけ飛
いかさそくうをひををてたまはずはりひきご
あてををあげらきてみあくいはいくうをひを
かうをあおあらおりのくいはあきれあはようろひ
らきていをあおとはひをりさとをきとわ

[illegible]

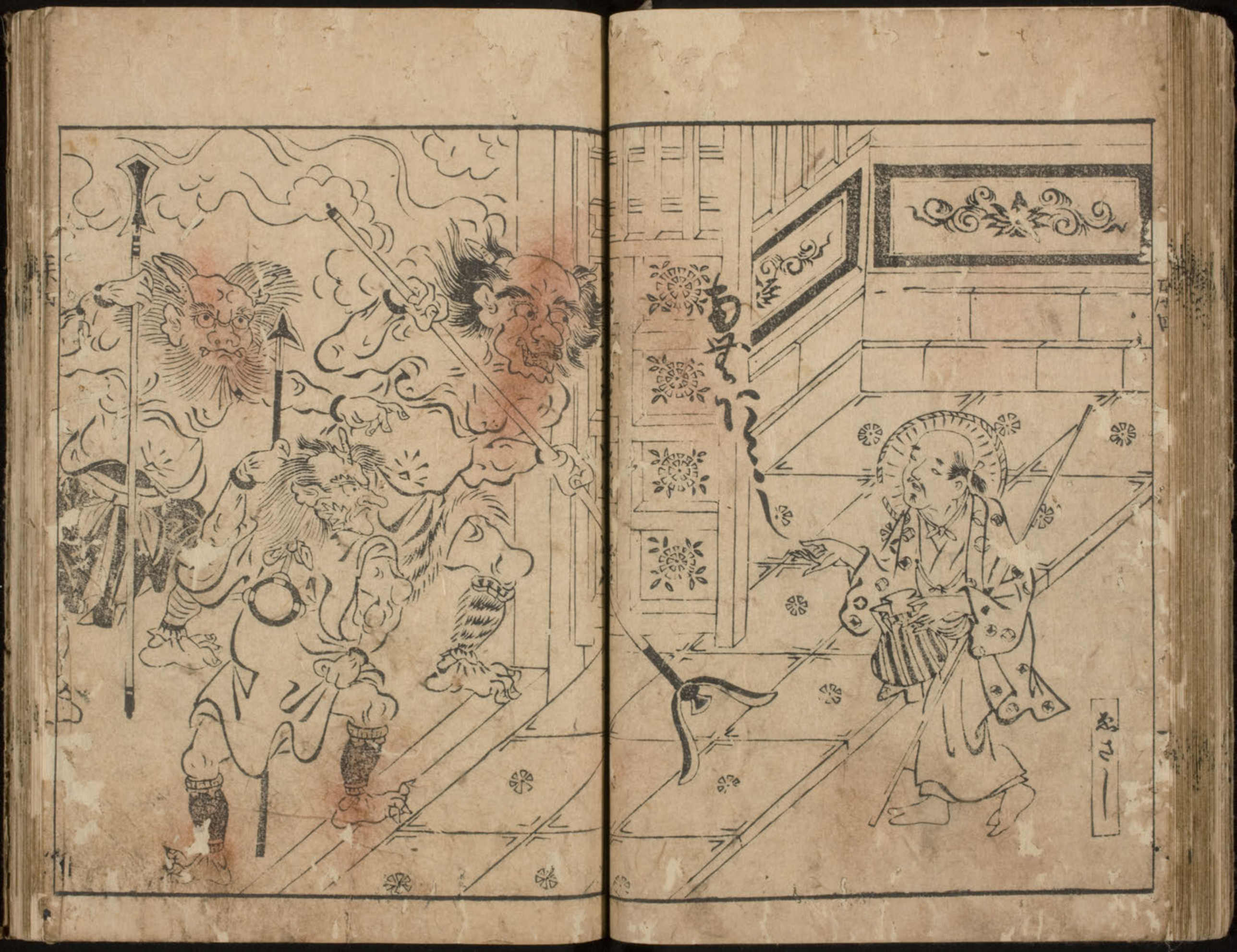
[illegible]

[illegible]

[illegible]

くどくの念佛

あるものひとと稱んが間ととはすに入又ひとてい
うはすに入ひとものとてうまるすにはあるれとに三う
はすてはあて三だんかりこれだに九うはすぞ
とはあけりとあるあどゆんあもうあげて後
廣もとてそのちさのこ稱んがつもとさまい
けるふ六十八九あそはのふあるうどうさけると
とをうろ稱んが間どはとはうるふはあ
ゆくりにこもろりあてゆるけり廣の[illegible]
はけいあふ七八人あそだ[illegible]



とどこをおけばよいかとて
かぶとのうちのうちゆうに
うるまでもあり　はるかとよりかぶとの
ありとらの中のうちに
けつうりの事あり
らしさあひとりさて
るすぐるみりのをあて
たなびいて六ん
ありせひとんとい
こをるふうかめらん
ありの見たるかをとこ

ちくんとすそのつきに
しづかさをとりを
見えて見いあくんそ
いるごあるといふすし
いきまて　まんちくよ
らあて八ん
うかくあくりあ
しまとて十
さあれど

さうあるとの
山のようあこ

はるかとよりかぶとの
ありとらの中のうちに
けつうりの事あり
らしさあひとりさて
るすぐるみりのをあて
たなびいて六ん
ありせひとんとい
こをるふうかめらん
ありの見たるかをとこ

ちくんとすそのつきに
しづかさをとりを
見えて見いあくんそ
いるごあるといふすし
いきまて　まんちくよ
らあて八ん
うかくあくりあ
しまとて十
さあれど

さうあるとの
山のようあこ

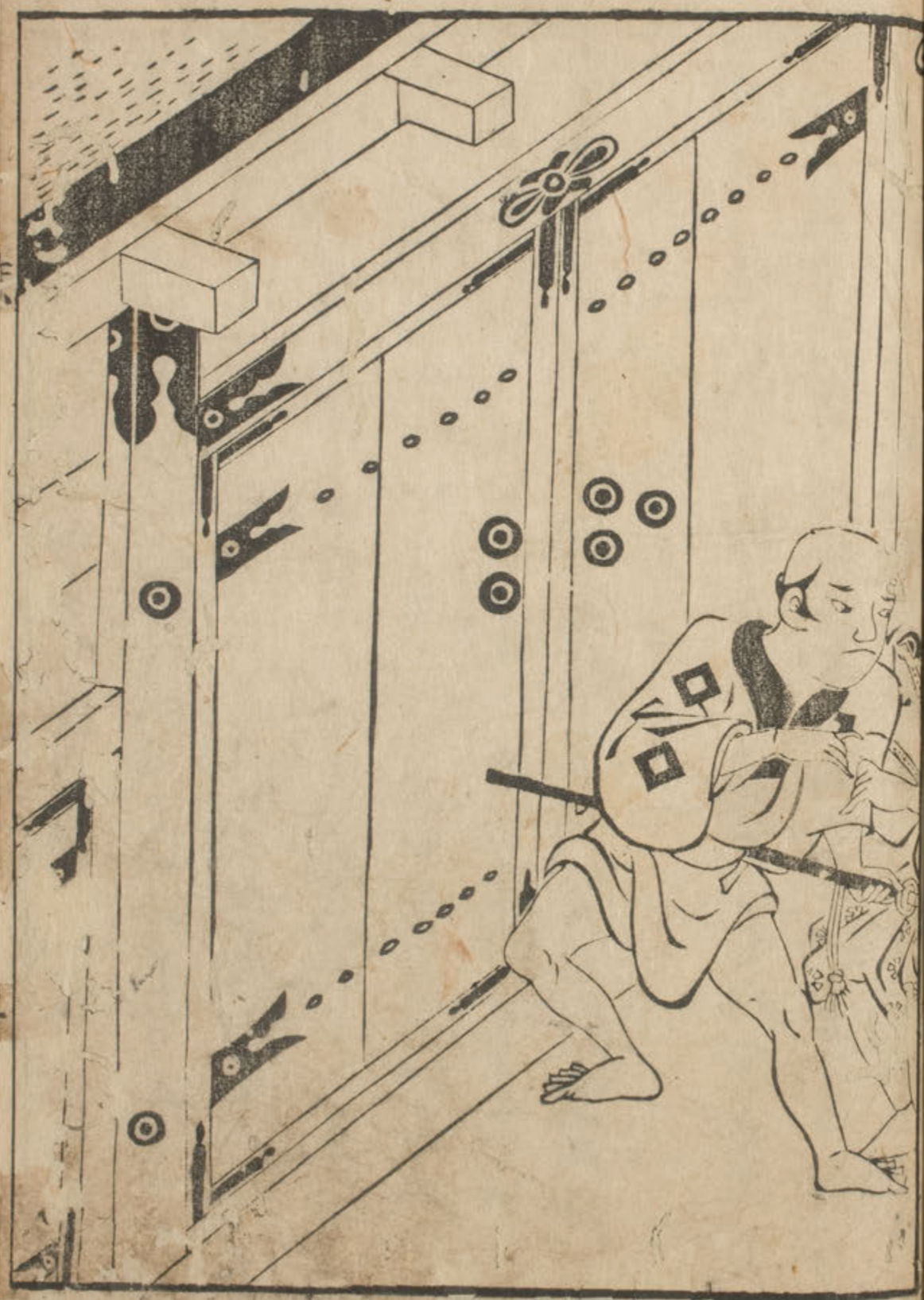
ようなおもかりしみつの剣しよすまどもかくてん
なあさづうゆるとありなふとそはまう志ぢをとく
拝らひをきとりかなまれたらうかしあり
なのまう志ぢこうりきれいうくよちそしして
きふいあめもかりさうなれとにあさなのひともなる
まじまれう尾へきうりあへとうちつきて
やぞてほへとしふせてゆりきれたまう志ぢは行
こまういの色いきゆつま一本さ七んとそてもてまさむ
うせきりゆうとけつきにまるせそゆうとそてまるの
なう八三寺かく仏語をはきここをきれいまうまう

[illegible]

してごんにゆくとぞろりくいのま志ぢれといふさ

車善七が事

るふしころ善七がこゝろよ事すれいでさけ
ふおびたゞしくん伊り蒔うしのまうさともの
おほく出てこけるよは事ずいまさうしく為なは
こさも偽つさといふその中よよろうよあくあい
けるとの戸ろいさあくそかけはけてせめてし
若のきつものけて助んとてはと例いさうぞ
きよとふやりはきゆてつけはけうりあさくさ
こ海のさこゆへミふの弁いさふのこされけんへふとうえ



[illegible]
いかいやりてくいうずくよーとくいふ見まてきさ
てあせたとこへいまきしくえもいきもてあらふと
いふあたてあふうきまてんとくいやくぐんをよ
きをゆうてこのーいうあるいきらくさかろふう
かんこうさいりたちり紙よ火がはいつくとくいふ
あんのごとくいきもであるてさるものきのさろれ

代度のかゆはは

ゆとうたあるうものきをゆくとてあるかさよ
ゆきあうるものかにちてをちてさんくきりきろ
[illegible]

てはいかあるりとうものさあり[illegible]
ちんとうふまるこうあるやうまて。ぐまうふかは
きりりたにひきとハうたれどとうてかひありとも
きんんそぬきけきるそのりのほんはきらいく
あくあけれにぬきてうをきくとうとん
やうるあけきてとそのまてもきんんとてるとうを
ひをきりとしりあり所のものお会らうをき雀
てそうんてうてうあれ仕きゆきけうよ
仕度やうりあてきたいーまふ。ふ彼きけて
女人かあひて。ぐとをきるひさらくとそれお。
いうあうーうきをきうあるうナノ　とそりうくうり

あるべきなり　いんくわの　ふしぎなる
ことと　作まれたりとぞ　町　御下屋敷
新さ八ツ系ゆきさうを九十ゆとりとり
二人ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆきと作まるゆ又二人ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
八ツ系ゆ九十ゆるゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆきと作られと

表見座のかけ物

さ御表見座のゆ二三人ゆあひてあそびけるゆ
ひうぐゆさるかけ物を見ゆ六ゆ入ゆに春ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

さ八ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
いゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
うんとゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
三人ゆけゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
てゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

貞享三
喜

同惜
女歳春
憐
ひとくさり

[illegible]を張りひろげて吉弓とかいて口中の高ハ十一のさう
よのとおりでこざるゆゑ口中の高ハ十一のさう
みてかのひらくあるゆゑ和ざとくいまれこ百姓トし
けりもちさてハ表のちゑめよりかけるものを
そこらろこびますこと[illegible]ハ何かもうくあるを
おひ油するゆゑ[illegible]あるくぞざるぞかた
とりふさもいきいてさりとてもちゑざいくく
ちんどられさりざ表ざいハかうさりあれ

四ハいかほどそこたの字ハ[illegible]
川小の字ハ先たそこれをうたひくあれをうこの
ゆうハ三ゆ大たそハ三ゆ小十二月の大ゆあるべし
こうこ[illegible]あるうのいに・くくゆ十三あるとを
きてさたこうみをひきあをてこれいたいあ
ものかるこ

貞享三

ちくこれあれ与八字・三年の大小ハ[illegible]
人ハこうこの年の一の[illegible]

紬心太こく滿い

さらし町のほそりんうちくかうちのしやのゆきしか
そのみどうらくものにて。おくらんきうにてついに
きえざるぜいのおそりやうあらけしてあまさにおて
ら絲さいけり二絲しも極月の正米まなり
まうらにまく身のおきさところなくして。たしか
せんしうしていそりきうかりけり正へ行るく絲ん
二絲しうるまとぢちさきりていふそうはさそか
まが身のさきうぢいまなふとしてあいつる後きて
ともそうがなきれとい。ますさしあさまひとなお
まづ〳〵又かうかうりまあるるもの身のにかよろろなれ

そ。こふれるなしけまれくさくく
たゞくまいがなゆりれきに。おいくへよからふさと
いかきなれぞかのものいやういふゆきふにかん
身つしてたまあてさあるぞそのやういを
せんとそふきうにあさくさへゆきて紙そ行く
見し。めんとさうつ十二みふてらいさ。それぞれ
こまる枕のまかんひさ行くろひまのくるを。はまる
なそしとくまちいそりれるなく正月網るよなり
まうだをふそうしのそうしめ月のたゝしあるゝ
ちしめあれまて門かめ。ふつしとに地けるあくし
新網うけてしますべ物。さとにづかんへといゝて

背燭共憐
深夜月
蹈花
同惜
春宵

あるときにゝ　ちゝはゝ
いしゝはゝそのあ
さんのんちゝこそ
まことごろとい
きれぬ門ちゝこそ
みせたくまとんて
ちゝあるひこかく
ちゝのきろ　とちゝ
ものあれど　あめまち
きれぬたくまい又
あくく　そにゆりり

かりてかつさ
ようちゝ

かんぐんのゝ
所屋町は明石屋又か
ぢ人の口命さ
ちゝ　ちゝはいさ
おとゝが度横ふそ
まさらんあれ海せ
あそのすうこ作け
ゝてゝのちちあり
海ゝとふ見ハめゝ
どゝびけけ　又ふ

はづかしさ　海の中とうちつゝきて此ときそ
くらまぎれに゙の山の中の見へるか見へて
あされてかへられさ

康の字　兜背五
ぬれぬれたし濡り

そもそも天子やうにしてさいかかりおんあて
どうせず月日めぐり候もめんやうなる御車乃
け庭くなりたるかしの院はでよこおんへのぬれつくと
いひてきんかのやきをてらさせたる日本ののの
かこきよこそさ海とあまのうきたるしのらへよ
してせきまいのとのひとくするせんあひみふ
ゆくさいあ比より銭銀かけちじまりなる
何海のさ々りとばんとさしこそかくうらと
川下しまへまいさ紙りあるうつ々すくとある

いづれ志やくわりさだめあそばし候ゆへ、いやしくやう

このころのならひに、やまとこそあれ、ひとむかしの作法、まづ

地水火風空のいつゝにかたどり月もかたの口をあけ

あらはる女男とかくしく夫婦よにかさねける

おもきいましめぬがゆめゆめくらゐをあらそひかんがへて

又ひとよりこのたねをまもりて、さかえたるのちのちつく

よりきたりて、なん女のかたちひあり、しかして名

れば志ゆつしやうのあめよそでぞあらはるゝ

おかしのかたち、ゆるゝまんといふ、めでたくいかで

あらそひ、いまだたまざるぞ男いやそうそ

あいなたゞ……ねんごろにすべし

よのいのちぬきてといふくこぼれ

中臺のお名

禁中にはきさきをはじめおほくある人おほぜいある

大臣と中きさきいまだしらくたらちねにさうらふ人

ありといふころのこと、どうもいまだぬしさ男あけ給

たしかなるのちのひ、ほゝゑけのこゝろ、するきたるよ

はゆゑまんれんたまひて、あそばれにさのうにおりふ

れらあれさるふよ河てあそ遊き、からこくのたはむれ

もられてよきとさくに何ぞそなりとめならされど

おりよおりがしらみ、八月廿一日に、でうせん志ん

をかろさる女てん、武士ぐ世いのうらにかの玉どりすゞ

ちゑハおく　こゝろせんせいしつにゆきとゞき
心はらし仏者安式分にて生死をはなれて仏
となさん。てうかうせられしきるになさしめ乃人
まよひて、ぎわれたいせつの玉をおもひいだすよし
ぜひにかしなまへと。ふかくなよのみせうすてまつせい
ふかのぞすかしけりにけんへもひさき。やうにさない
おもてぞ身もちあさん。せんきうへゆうきききるよ
かの玉なりにあれわぬきすておくごきる和よへて
おんなるもおかづらかし　けん玉ハ海さらしく。いろく乃
てうわうのうたにのしへよぬすうみきてハせんみとて
かねえたつ　ゆうがにへ

いくして　きりのそこもわるむ。これほうきそうさき
ゆうがにつまんの玉おと　しうりともいひまえにもらし文
人のまにまとりくろうすつもえうりかうしされだとて
せんざうぬ抽のうありせいあくかへりてあのよし
かうくきけきそ　け大臣ふくあげさゝりそてやく
おりひてそのゆくにゆきかよひてうちにかいそぞそ
の十いかうおんなのまろいあるにハはなさだね三
はけずあ海くとのまよびに是をふくたのミ
けゆはかの中へめんおうみつせの玉をおもてんと
あまきこりあつうたかんちづつぬ海さいよせんと
いふむかぞ中　ここをかみしゆすあるわうし　よ御は

三ぶさう一ぬとひらふふのの男みそ大せいの男入こと
のうちへ入ぬとそのまゝに紙をぬぐいうと
あるひとづゝへ入ぬ今やうさゝもあんだ大ごうめそ
ゆぐいはるゆいはけよあつと。そとにひうてうさ
おりひるでさのこゝのうちうせ海とかさく。はい
屋くさであつ。りかのたまをうりさうはけあと
を。うどうせ我えんをてひうんとてあげりぐにひうへ
いか。その時のあ海やくそくひとりのてあこと
さげりて。ゆたがの中へとび入ぐ人へかどう
きひうさへうそのひまにあをたうひうてあんと
をまぬぐはめへうりはくぐ。ぬかひて。ふうくうあまこへ

ぬまはかどうさ。ぬをそぐ。ぬをたかこうさそ
ゆこうきりゆをのかゝひよかさかさいめぐ。ぬ
たりにちうくぬきてもかゝそのひまにくそく
れるをうこうせそのへうちひ。ぬきだうと
さまをはうくひさうるゆへよあげりぐにそ。む称
をうりて。ごうをすくこうちりぬあへうげき
のうあやうむもいうこにありぬもむりく
ありうりと。うにうちりまをかのあ海い
のうさわてトやうりうぐ海そのあうりを。みなまさ
いのげあて海そのうさにあるかたりのあかうり
ぬうこうりかゝぬくふぬを。うりぐてあわる

[illegible]くらをつくし　[illegible]
でらまで金拾兩よりづゝと云とゝあり

ぐりあぞ

はこゝろよりあそをこゝろぐ・こゝろ海
あづ海ら・あづまらら・　はこゝろよかるすとこゝろ
こゝろ海ら・　あこゝろこゝろとこゝろくこゝろこゝろ
こゝろまこゝろといふこゝろあるにこゝろうあるこゝろの
あそをこゝろて・はこゝろよかるすこゝろて・あこゝろこゝづ
でこゝろこゝろいのこゝづこゝろいのこゝづかのりのこゝろ
かこゝりこゝろはこゝろぞをこゝろあるけこゝよ・あこゝまこゝら
こゝろあるけこゝでこゝりとこゝろとこゝ

二月のんくゝりめこゝろひこゝろかこゝろこゝろ海こゝろとゝ
あそこゝろこゝまこゝすとこゝ云はこゝをこゝきこゝうゝとこゝきけこゝ
かりこゝづこゝといふ・かりこゝづこゝといひてゝはこゝまこゝ
こゝそこゝこゝこゝあこゝこゝ海こゝ・かこゝらこゝづこゝこゝこゝこゝこゝたあこゝをこゝこゝ
こゝどのこゝのこゝづはこゝまこゝこゝぬこゝうこゝはこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝぬかこゝりこゝこゝ
まづこゝこゝこゝこゝこゝのあこゝりまこゝこゝ・かこゝりこゝづあこゝこゝこゝこゝこゝて
かこゝりこゝづこゝこゝこゝこゝこゝこゝといこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ

野良太郎
やろうもの
しゅうけん対る本

[illegible]

いかゞさうなんで大屋さうもてなしをいたしまして　さきをあてうあるとてあるりもむ　あるうるあひてはまゆきうしかしてあるとにいつもあるをさるよいかゞおうじよはあるかりとあるハはるもの
のくのどうあるまにはむとめるもあるあるこ
はまてまりゆゝさはたのきあるうまてさ
さうまゆせいまさてのてはのでよまてされ
ゆせいさうりゆゝさるのまさまりますの
もはのさあるたのゝゆすき信をきいた

あるきさくなりとさかのいひあるうまあるよ
いるをさるにいるさるのでよのだんあにかべらー
のでまるせるれあいはひがんだくあるひがぐ
りるもむをあるるいあて屋らがかのりも
ゝ女あるまいおまるたるさいゆるのるで二年
かのてるびまた。そるるをくいまて

作義がかるます

南うん屋町二月よさるるるいあるるのも
かのけるよ。あるあるれかるにかりるるさう
あるまあがゞさ男あるまゞがゞ名ゞと作義と作をは
ばゆにかうるゞを　　ゝ　　ゝ
りる。　とけゝるゝかゞ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
口よりはなしてあるべきなり。屋ゐまり
さるをいさゝかあり。とこのまへ門ありとこの
おもてのロかいらもの屋ゐまりあるよかんぞんの如く
いとうぞんの屋ゐまハるさかとくいへどもこゝろまり
まづやうぞんのたゆよりがうあるがかつてん金
のハかゐまこゝにかりがうありと云さきどもがら
ぞりみてゆるくハまりとくさうぞんを屋ゐまこと
をもうかさいつてゐるとこゝろにとこゝろの方のあしを
あげいでゝこゝにさすゐまこゝひさをありてゐけく
なり

あふぎのまうけん
高ふ義屋の流義とこゝろあるべき
みやりありりんハ廿三ゆまうハ十二三よりゆまうの日かゝり
ちりしくつきてこゝをあびけてくふきあげ
いかれとに見のちゝかゝとようひてあるをこゝ
せけるふ宮の沉島ハあるそのちんさうかけあ
けるあり　毋ゆをあく乳よゆきにけが。う
ちいかゝそのにあまはゝにけくと
ちゝうんあまきで。だてそのこゝうあにちあ
ちでひあびしてゐりありひきけくうハてか
らまつ　ゝ　そ　ゝ　ゆ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

[illegible]

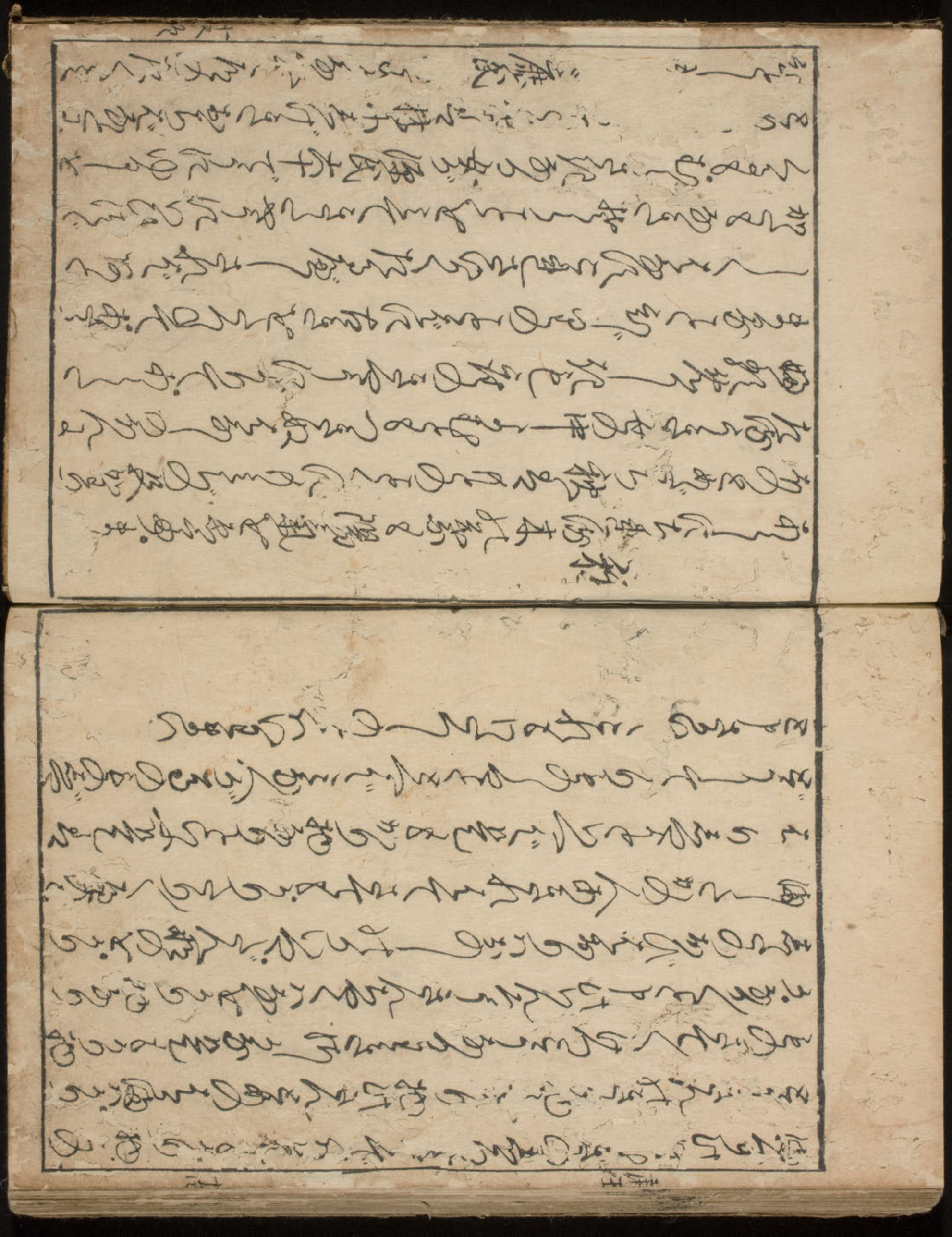
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



[illegible]

[illegible]

一冊

かさくもち松本まで出る紙ある屋くゝ麻民

ぞんみをさげかさ入者

麻野ぶ笠巻終　作者　麻野氏九衛門

相模屋太兵衛　開板

110X
254
1